

## 神戸市環境マスタープラン重点施策に関する学識経験者の意見と本市の対応

項目	学識経験者の意見	本市の対応
<p>【重点施策 1】</p> <p>低炭素社会の実現に資するエネルギー政策の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・温室効果ガス排出量について、神戸市の 2022 年度の想定はどうか。</li> <li>・CO2 削減に成功している取り組みを紹介することは、市民にカーボンニュートラルへの理解を深めてもらうのに啓発効果が見込める。紹介できるような先駆的な取り組みはあるか。</li> <li>・温室効果ガス排出量の経年推移や順調な取組やそうでない取組について説明がほしい。指標評価について、件数が減っている事業もある。課題分析した結果、温室効果ガス排出量は減少傾向なのかの方向性が知りたい。</li> <li>・「こうべ CO2 バンク制度」は特色ある取り組みであり、市内の企業や市民といった主体ごとに具体的な制度や効果が知りたい。</li> <li>・同一の排出削減量に対して、カーボンクレジットが複数回発行されるなどの二重計上の制度的な問題についての考え方が知りたい</li> <li>・温室効果ガス排出量のグラフでは、運輸部門が下がっていないが、どのように分析しているのか。運輸のデータの計測方法や水素カーなどの導入により削減は見込めるか知りたい。</li> <li>・昨年度策定した「神戸市地球温暖化防止実行計画」について、進捗管理はマスタープランの中で検証するのか。</li> <li>・基本方針 1 と重点施策 1 の指標は、昨年度新たに策定した「神戸市地球温暖化防止実行計画」を反映した方が分かりやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市域の温室効果ガスの算定については、統計データ等を用いますので、データ発行の時期上、2 年前の実績値（推定値）を公表しています。今年度は、2021 年度実績を現在算定中です。</li> <li>・市民団体や事業者など様々な主体の自由な発想による、先進的で創造性に富んだ脱炭素につながる取り組みに対して支援する「KOBE ゼロカーボン支援補助金」を創設しました。2022 年度は 18 件の事業を支援するとともに、これらの取り組みをホームページ等で広く紹介し、市民や事業者の脱炭素化への意識醸成を図っています。</li> <li>・個々の取り組みについての温室効果ガス排出量については算出しておらず、部門別排出量を算定しています。市域の温室効果ガス排出量は、2013 年度以降、増減はありますが減少傾向となっています。</li> <li>・こうべ CO2 バンクは、国により運営されている「J-クレジット制度」に基づいています。企業ではカーボンオフセットでの活用、市民にはクレジット売却益の施策への還元等で効果が波及できるよう努めています。こうべ CO2 バンクのクレジットを活用したカーボンオフセット事例（公表可能なもの）を市ホームページに掲載しています。</li> <li>・神戸市のクレジット認証の対象となる市民の再エネ導入等による CO2 削減量は、市民が国内で行われている他の排出削減事業に参加していないことを条件として報告いただいているため、二重計上には該当しません。</li> <li>・運輸部門は、自動車、船舶、鉄道、航空の温室効果ガス排出量であり、そのうち約 8 割（78%）が自動車による排出量となっています（2020 年度）。神戸市の自動車の温室効果ガス排出量は、近畿地域の燃料消費量から神戸市の燃料消費量を推計し、排出係数を乗じて算出しています。車 1 台あたりの燃料消費量は減少傾向ですが、神戸市の車保有台数が増加しているため、温室効果ガス排出量としては、微減となっています。エネルギー効率の良い燃料電池自動車等が普及すれば、運輸部門の温室効果ガス排出量は減少すると考えられます。</li> <li>・「神戸市地球温暖化防止実行計画」の進捗管理等については、重点施策の取り組みのなかの市域の温室効果ガス排出量をもって考えて参ります。</li> <li>・基本方針 1 と重点施策 1 の指標を「神戸市地球温暖化防止実行計画」の温室効果ガス排出量の目標など新たな指標にいたしました。</li> </ul>
<p>【重点施策 2】</p> <p>市域で発生する木質バイオマス等の活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伐採木の活用のための具体的な内容や調整事項などの課題について市の事情を知りたい。</li> <li>・安定供給のため、市外廃材を市内で活用することも検討してはどうか</li> <li>・カーボン支援補助した事業の今後の展開についてどのように想定しているのか。バイオ炭はいい事業であり、実証事業だとうまくいけばいいと思う。引き続き取組んでほしい。</li> <li>・公園や道路で剪定した枝葉を、木材チップに活用するような取り組みはしないのか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の課題として、不定期に発生する伐採木をチップ化する等の処理と、材を使用する需要先の選定が必要です。需要側のニーズとして安定供給とコストの適化は必須であるため、他の伐採木・剪定枝等の活用と合わせて供給できるスキームを建設局等と連携して検討しています。</li> <li>・KOBE ゼロカーボン支援補助金については、バイオ炭などを含め、カーボンニュートラルに寄与する取り組みについて、スタートアップに必要な経費を支援することが主たる目的と考えており、今後はこれらの取り組みが継続され、それが他地域にも波及するなど、市内の脱炭素に向けた機運醸成の一助になることが期待されます。2024 年度までの 3 年間の支援実績や波及効果（横展開）などを検証し、今後、どのような施策を展開していくか検討して参ります。</li> </ul>
<p>【重点施策 3】</p> <p>2R（リデュース・リユース）の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・てまえどりは、表彰もされてもいるが、神戸市発祥とは知らない市民も多いと思う。もっとアピールすべきだと思う。</li> <li>・食ロスは非常によく取り組んでいる。このまま続けてほしい。</li> <li>・独居の高齢者が亡くなった場合のごみの処理問題が、今後の課題となってくる。空き家対策として関係部局と連携して取り組んでほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「てまえどり」に取り組む連携事業者の拡大を引き続き図るとともに、神戸市発祥であることを、市民にアピールし認知拡大に向けた取り組みのさらなる推進に努めていきます。</li> <li>・独居の高齢者が亡くなった場合については、関係部署間での連携を深め、福祉・医療的支援の働きかけにより、引き続き取組んで参ります。また、遺品整理や空き家整理等の片づけ支援サービス事業者の情報提供や選定を、神戸市すまいの総合窓口「すまいるネット」と連携し実施しています。</li> <li>・ごみ屋敷については、情報の共有及び対応策を検討する環境局と区との「連絡会議」を開催し、ごみ屋敷解消の取り組みを進めています。居住者と面談を通じ、ごみ屋敷の解消を図り、福祉制度の活用による再発防止につなげた事案や、建物管理者や親族・近隣住民の理解・協力で片付けを行うなど、居住者の生活上の課題の解消を図っています。</li> </ul>
<p>【重点施策 4】</p> <p>安定処理に向けたご</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収集の効率化のために中継システムが効果的であるが、今後のごみの焼却量の減少なども想定し中継地を継続するかどうか今後も検討してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後とも計画的な整備、維持管理を行い 3 クリーンセンター及び中継地について、全体最適を図りながら安定的なごみ処理体制を構築して参りたい。</li> </ul>

## 神戸市環境マスタープラン重点施策に関する学識経験者の意見と本市の対応

み処理施設の効率化		
<p>【重点施策 5】 外来種に対する在来種の保護</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神戸は他都市に比べ進んでいる分野で素晴らしい。継続的に取組んでほしい。自然の魅力がある地区であり、神戸市の真ん中に六甲山があることをメリットにしてほしい。北区西区の水田を活かしてほしい。</li> <li>・生物がいる環境を守ることは人間が快適に生きる環境につながるという神戸のコンセプトはいいと思う。</li> <li>・神戸市は希少種生物がたくさんいる都市で、それらの生物を身近な場所で見ることができることは神戸の魅力であり、神戸に住んで良かったというアピールができるようにしたい。</li> <li>・生物多様性の観点でも神戸には資源がある。六甲山は神戸市の特徴であり、こういった自然を施策に反映してほしい。</li> <li>・防除すべき生物と希少種生物との区別を、子どもには教育観点で教えることを忘れないようにしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、継続して生物多様性保全のための外来種対策を進めてまいります。</li> <li>・六甲山、北区や西区に広がる水田を含めた里地里山、瀬戸内海などの豊かな自然は、神戸の魅力ある資源であると認識しています。この魅力を広く発信するとともに、次世代に引き継いでいけるよう、人材育成等に努めてまいります。</li> <li>・外来生物展示センターや出前講座において、生物多様性とは何か、なぜ大切なのか、なぜ外来生物対策が必要なのかについて、子どもから大人までを対象としてわかりやすく説明しているところです。その中で、希少種保全の大切さについても伝えていきます。</li> </ul>
<p>【重点施策 6】 適切に管理されてきた二次的な自然環境の維持</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神戸には絶滅危惧種の生物がたくさん生息しており、ポテンシャルがある。今現在もそれをキープできているし、生物を守る仕組みができればいい。</li> <li>・里山に住む人々と価値観を共有できるようにしたい。そのような価値観を重視する人を中心に、神戸に住みたいと思う人間も増えるという観点も必要。</li> <li>・山遊び川遊びなどができる里山は、神戸市の貴重な財産であり活用していくべき</li> <li>・里山は農政との連携が必要であり、担い手不足対策が課題と考えるがどうか。</li> <li>・里山とはどこにあってどのような機能なのか、里山の活用が生活にどのような潤いをもたらすのかを子供にも分かるように啓発してほしい。</li> <li>・登山道の清掃ができていない。里山支援でぼい捨て場所をスマホで撮影し登録することでごみの減少を図るアプリの活用などぼい捨て対策を検討してはどうか。</li> <li>・登山道整備など民間と連携して取組めないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・里山や生物多様性が持つ価値は神戸の大きな財産であり、魅力と認識しております。市内外にこれらがしっかりと伝わるよう、今後も魅力発信を継続していきます。</li> <li>・希少となった生物やその生息環境を、今後も持続的に保全していくための制度設計を検討しているところです。</li> <li>・農政部局、防災部局等とは互いに連携し、オール神戸で里山の保全に努めてまいります。</li> <li>・活動の新たな担い手の確保・人材の発掘については、我々も解決策を模索しているところです。現在審査中ですが、OECM や自然共生サイトに認定された際は、これを契機に PR 等を行い、多様な主体の参画につなげていければと考えております。</li> <li>・自然離れが進む昨今、子供に対する里山の啓発は非常に重要と考えています。神戸市では、親子や若者などをメインターゲットとした里山まちあるきイベントを企画している他、OECM や自然共生サイトの対象エリアの一部では小学生の環境学習の場としての活用等を計画しております。</li> <li>・登山道整備に関して、神戸市では主要なハイキング道の維持・補修を日常から行っています。また、毎日登山を実施している登山会等、市民団体が実施する登山道の清掃や巡回、小補修等の活動に対し、助成を行っています。(森守ボランティア制度)</li> <li>・また、2023 年より、市民などが神戸の財産である「登山」をより楽しめる取組み「神戸市登山プロジェクト」を開始しました。登山支援拠点や休憩スポットの設置の他、市によるこれまでの登山道整備も拡大しています。その中で、市民や企業従業員が参加する「市民・企業参加型登山道整備」の取り組みを始めました。また、同プロジェクトに対する寄付や活動参画をしていただく協賛企業を募集しています。</li> </ul>
<p>【重点施策 7】 光化学オキシダント、微小粒子状物質 (PM2.5) への対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・B 評価の理由をもう少し詳しく説明してほしい。</li> <li>・大気汚染や光化学スモッグの評価データを取り続けて監視することが環境行政の一番大事な土台。大気汚染等の成果について、年次評価は「B」だが、悪化させずに現状維持できていることは行政として十分責任を果たしている。</li> <li>・光化学オキシダント、微小粒子状物質 (PM2.5) の原因追及は大事。自動車排出や脱温暖化と連携して削減を図ってほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PM2.5 については、2017 年以降全局で環境基準を達成しています。</li> <li>・一方、光化学オキシダントについては、全国的にも環境基準達成率が非常に低く (2021 年度の達成率: 0.2%)、本市においても昼間の一時間値の最高値の平均値は 2000 年ごろから減少傾向ですが、マスタープランの目標である「環境基準の達成」が果たせていないことから B 評価としました。</li> <li>・現在、国において光化学オキシダント、PM2.5 の発生起源・メカニズムの解明が進められているところであり、その状況を注視するとともに、本市においても成分分析調査の実施など、発生起源・メカニズムの解明に努めていきます。あわせて、次世代自動車の普及なども進めていきます。</li> </ul>